

第5章 文化財の保存・活用に関する目指すべき将来像

1 目指すべき将来像

富士宮市には、これまで整理してきた文化財と歴史文化の特性である「富士山と生きる歴史文化」「道と交流がはぐくむ歴史文化」があります。なかでも第5次総合計画において、目指す都市像として「富士山の恵みを活かした元気に輝く国際文化都市」を掲げているように、富士山は本市を象徴するものと言えます。そして先人が残した文化財は、まさに富士山の恵みの象徴の1つであり、それらを知ることをとおして郷土愛を育み、また保存・活用に努めることは、本市の目指す都市像の実現につながります。

そこで、本計画では目指すべき将来像を次のとおり設定します。

**「富士山とともに生きる富士宮の歴史文化に誇りを持ち、
守り、未来へ活かす」**

2 基本方針

1 の目指すべき将来像を実現することを目指し、市域の文化財の保存と活用のため、今後の取組は、以下の4つ基本方針で進めます。

基本方針1 掘り起こす（調査・研究）

市内には、指定等文化財以外にも、各地域で守られてきた未指定文化財が数多くあり、富士山とともに生きる富士宮市ならではの特徴・魅力と言えます。これらを調査・研究することは、新たな特徴・魅力を掘り起こすことにつながり、本市の歴史文化に誇りを持ち、守り、未来へ生かすための基礎となります。これまでの調査で把握されているものの価値が明らかでないものや、存在は知られていても十分に調査されていないもの、まだ調査がされていないものなどの調査・研究を進め、本市の魅力を掘り起こしていきます。

基本方針2 守り伝える（保存・管理）

富士宮市には富士山を始め数多くの魅力的な文化財があります。これらのうち特に重要または貴重と認めたものを指定等によって保護したり、文化財個々の特性に応じた適切な方法・環境で保存・管理したりすることで、歴史文化を後世に守り伝えていきます。

基本方針3 誇りを持つ（周知・理解）

富士宮市の文化財は、少子高齢化、人口減少、地域コミュニティに対する市民の価値観の多様化などの社会の変化により、所有者や行政だけでは守ることが難しくなっています。市民が文化財を知るための情報発信や文化財に触れるイベント・講座などを通じて、市民が歴史文化の理解を深め、郷土への愛着や誇りを持ち、大切に守り伝える思いを育みます。

市民が歴史文化を大切にしたい気持ちや、他の人にも富士宮の歴史文化の魅力を知って欲しいという気持ちは、文化財を持続的に未来へ活かすことにつながります。

基本方針4 未来へ活かす（活用）

富士宮市の歴史文化に魅力を感じる様々な分野のファンと市が協力し、観光や文化、教育やまちづくりなどの様々な事業のなかでその魅力を活用していきます。

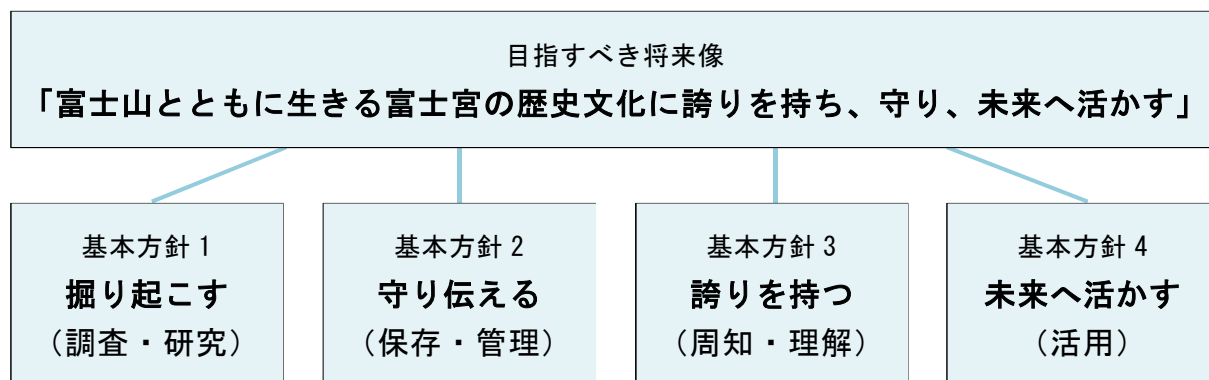


図 5-1 目指すべき将来像と基本方針の相関図